

## 平成 30 年度海老名災害救援ボランティアセンター・コーディネーター養成講座の報告

【開催日時】 2019 年（平成 31 年）2 月 17 日（日）、10 時～15 時 講義  
2019 年（平成 31 年）2 月 24 日（日）、10 時～12 時 30 分、訓練

【会場】 海老名市総合福祉会館、第 1～第 3 娯楽室

【出席者数】

	一般市民	災ボラ	社協	危機管理課	合計
2 月 17 日	17 名	9 名	4 名	2 名	32 名
2 月 24 日	16 名	7 名	6 名	2 名	31 名

【講座内容】 2 月 17 日（日） 第 1 日目 講義

### 1. オリエンテーション、自己紹介（受講動機）

受講動機では、災害について勉強したいというのが、参加者の共通の関心と思われる。

### 2. 災害時における海老名市の対応：危機管理課（川崎由稀）

### 3. 災害時における社会福祉協議会の役割：社協（新倉英司）

### 4. 海老名災ボラの活動について：海老名災ボラ（福田博）

### 5. 災害救援ボランティアマニュアル（改訂版）の説明：社協（新倉英司）

（昼食）災害食体験

### 6. 災害救援ボランティアセンターの運営の実際（県社協、赤間篤）

### 7. 振り返り（質疑応答）

①受講修了者の登録数について：これまで受講修了者の合計は約 40 名（24 日回答）

②災害時における県レベルでの支援体制の構築について：

神奈川レベルでのボランティア及び物資などを的確に配分できる体制はできるのか？

⇒県内 4 団体を中心に検討が進められているが、先進的な件に比べて立ち遅れている。



## 【講座内容2】2月24日（日） 第2日目、訓練

### 1. オリエンテーション

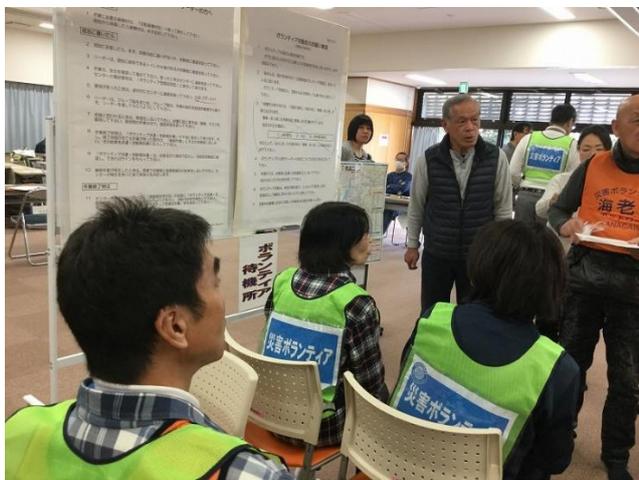
### 2. 災害救援ボランティアセンター、立上げ訓練

①立ち上げ訓練の方法：3グループ（A, B, C）に分かれて、ボランティア役は、ボランティア受付班⇒マッチング・帰着班⇒資機材⇒マッチング・帰着班を巡回した（3回循環）。各班に社協職員が付いて受講者を指導した。

### 3. 振り返り（参加者の感想など）

- ①コーディネーターすることの難しさを感じた。
- ②巡回しながら、各部署で説明や書類の受渡しをやったので、ある程度、分かった。
- ③海老名が被災地になった時に、自分に何ができるかを考えたい。
- ④そのボランティアが「特別にできること」を表示できるようにしたらよい。
- ⑤養成講座に参加された皆さんは災害に対する関心は高いと思う。しかし、地域社会では関心の薄い人が多いので、関心が高まるような活動をしてほしいと思います。

### 4. 受講修了書の授与



ボランティア受付登録班



マッチング送り出し班